第78回 医学教育セミナーとワークショップ

e 2021年 1月22日(金) ～ 23日(土)

Special Webinar 1月22日(金)17:30-18:30

ML **小児科から医学教育へ**

講師：鈴木康之（MEDC）

eﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 1月22日(金)15:00-17:00

ML **専門医教育の充実を目指して**

－小児科専門医を叩き台にして考える－

企画：鈴木康之（MEDC）、西屋克己（関西医科大学）、高村昭輝（金沢医科大学）

2021 冬

eWS-1 1月22日(金)12:00-14:00

TL レゴ®シリアスプレイ®の手法を活用して、手も頭も動かす省察

企画：田中淳一（東北大学病院）

eWS-2 1月23日(土)9:00-11:00、12:00-14:00

CD 多職種連携を円滑に進めるためのコンテキスト(文脈)を理解するにはどうしたらよいか？

企画：春田淳志（慶應義塾大学）、木村周平・照山絢子・後藤亮平・涌水理恵（筑波大学）、林 幹雄（関西医科大学）

eWS-3 1月23日(土)9:30-11:30

ML 臨地実習において教育上の調整が必要な学生への支援を考えよう

企画：飯岡由紀子（埼玉県立大学）、松岡千代（甲南女子大学）、遠藤和子（山形県立保健医療大学）、小川純子（淑徳大学）

eWS-4 1月23日(土)13:00-15:00

ML あなたはなぜ教育するのか？－あなたの教育哲学を考える－

企画：井上和興（鳥取大学）、種村文孝（京都大学）、角南直美（鳥取大学）、及川沙耶佳（京都大学・鳥取大学）、孫 大輔（鳥取大学）

eWS-5 1月23日(土)15:30-17:30

TL 学んで楽しい！教えて楽しい！身体診察 －5つの教育実践例

企画：朝比奈真由美・伊藤彰一・鋪野紀好・神田真人・塚本知子・横尾英孝・笠井 大（千葉大学）

eWS-6 1月23日(土)16:00-18:00

A 英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！

企画：押味貴之・Tamerlan Babayev・Cosmin Mihail Florescu・Raina Abad・Katrina Fanjul（国際医療福祉大学）

1月22日(金)			
12:00-14:00	eWS-1		
15:00-17:00	eパネルディスカッション		
17:30-18:30	Special Webinar		
1月23日(土)			
9:00-11:00	eWS-2	9:30-11:30	eWS-3
12:00-14:00		13:00-15:00	eWS-4
15:30-17:30	eWS-5	16:00-18:00	eWS-6

※ 今後の社会情勢によっては、開催方法や会場の変更があるかもしれません

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY

医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
TEL：058-230-6470 FAX：058-230-6468
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
E-mail：medc@gifu-u.ac.jp

MEDC 検索

Special Webinar　小児科から医学教育へ

ML

講師：　**鈴木康之**（MEDC）

概要：　めぐり合わせというか、私の医師人生は20年刻みで大きな節目を迎えてきた。1980年に医学部を卒業して小児科医となり、2000年に医学教育の分野に飛び込み、2020年度で退職を迎えようとしている。振り返ってみると自らの決断というよりは、時々の周囲の人たちの助けによって道が拓けた感が強い。小児科で学べた事は「全身を診る、家族を診る、社会を診る」という視点であった。小児科時代は医学研究に没頭した20年間でもあった。専門分野は先天代謝異常症という稀少難病であったが、全身に障害が及び、倫理的・家族的・社会的に多くの課題を考えさせられた。こうした経験は医学教育の仕事をする上で、かけがえのない財産となった。医学教育の分野では全国共同利用施設というユニークな活動の場を与えられ、仲間にも恵まれ、伸び伸びと活動をさせていただいた。本セミナーでは深い感謝をこめて私の経験をお伝えしたい。

パネルディスカッション　専門医教育の充実を目指して

ML

－小児科専門医を叩き台にして考える－

企画：　**鈴木康之**（MEDC）、西屋克己（関西医科大学）、高村昭輝（金沢医科大学）

概要：　新たな専門医制度が発足して3年が経過しようとしていますが、専門医教育の実質的な充実に向けた取組は未だ十分ではありません。卒前教育ではアウトカム基盤型教育、臨床現場での指導と評価、教員養成などの重要性が共通認識として広まりつつあり、初期臨床研修も今年度の改訂により、こうした考え方が導入されつつありますが、専門研修レベルでは領域毎の裁量に任される部分が大きく、共通認識ができているとは言い難い状況です。このパネルディスカッションは、日本小児科学会が取り組んできたアウトカム基盤型教育、臨床現場での指導と評価、指導医育成の取組を紹介し、多くの基本領域およびサブスペシャルティ領域の皆さんと意見交換をしたいと思います。

対象：　専門医教育に関わる組織、指導者、専攻医、事務担当者

WS-1　レゴ®シリアスプレイ®の手法を活用して、手も頭も動かす省察

TL

企画：　**田中淳一**（東北大学病院）

概要：　医療の質の向上のために「省察」は、生涯にわたって、 自律的に学び続ける上で、非常に重要です。省察を行う際には、考えの可視化が必要になり、通常は言語化して、他者との対話を通して、振り返っていきます。しかし、自らの考えが頭にイメージできても、言語化することが難しい場合では、十分に省察できない可能性があります。そこで、今回、考えをより可視化できるレゴ®シリアスプレイ®という技法を用いた省察を体験いただきます。自分の考えをブロックの組み合わせで表現し、自らも他者からも視点の幅が広がり、言語での表現の限界を感じていただき、今後の自身、または周囲への省察を行う際の一助になれば幸いです。なお、WSはオンラインで行われるため、WS用の物品を発送いたします。その受け取り・返却ができることとWebカメラの使用が必須になりますことをご承知おきください。

対象：　「医療者教育」や「省察」に興味のある方　　定員：16名

WS-2　多職種連携を円滑に進めるためのコンテキスト（文脈）を理解するにはどうしたらよいか？

CD

企画：　**春田淳志**（慶應義塾大学）、木村周平・照山絢子・後藤亮平・涌水理恵（筑波大学）、林　幹雄（関西医科大学）

概要：　教育や臨床現場で働き続ける教員や保健医療福祉の専門家は、意識・無意識に限らず思考が固定化される。その弊害を打破するには、移り行く社会構造や言動の背景にある関係性、そこに潜む権力、職種が抱える価値観などのコンテキスト（文脈）を理解することが求められる。この理解を進めることで、多職種連携で顕在化するコンフリクトを最適に扱うことができる。また昨今の複雑な問題を整理するためにも、大学の教員や保健医療福祉専門職は異なる価値観を持った他者との対話が求められる。このワークショップの目的は、人類学者を含む多職種とともに、保健医療福祉の現場を重層・複層的に張り巡らされた文脈を通じて理解することにある。多職種カンファレンスのビデオ観察学習、ホットシーティングなどのワークを通じて、専門職がゆえに互いに理解しづらくなった文脈をどのように捉えていくのか、この課題に参加者全員で取り組んでいきたい。

対象：　全ての大学の教員や保健医療福祉専門職　　定員：25名

WS-3　臨地実習において教育上の調整が必要な学生への支援を考えよう

ML

企画：　**飯岡由紀子**（埼玉県立大学）、松岡千代（甲南女子大学）、遠藤和子（山形県立保健医療大学）、小川純子（淑徳大学）

概要：　障害者差別解消法の施行により、合理的配慮の体制は整備されてきました。医療専門職教育には臨地実習が必須科目であり、実習ではケア対象者・家族の安全を確保しながらも教育の質を保証する必要があります。診断書などの根拠資料を必要とする合理的配慮だけでなく、発達障害の特徴を一部有する学生にも何らかの教育上の調整を行うことになります。しかし、これらは不透明で臨機応変な対応が求められ、担当教員や臨床指導者の困難感が強くなる傾向にあります。一方で、臨地実習は学生にとって多くの学びが得られる貴重な機会です。
この臨地実習の学生の学びを促進するためにはどのような教育上の調整をしたら良いのか、学生への直接的な支援だけでなく、組織としてどのような支援体制を整備するのかについて共に検討します。企画者が開発したFD/SDプログラムを紹介し事例検討を行います。皆様のご参加をお待ちしております。

対象：　本テーマに関心のある医療系教職員　　定員：45名

WS-4　あなたはなぜ教育するのか？　－あなたの教育哲学を考える－　ML

企画：　**井上和興**（鳥取大学）、種村文孝（京都大学）、角南直美（鳥取大学）、及川沙耶佳（京都大学・鳥取大学）
孫　大輔（鳥取大学）

概要：「なぜ，あなたは教育するのか？」という問いを社会構成主義的に、その場にいる参加者・企画者が語り合うワークショップを行う。その問いに向き合うために、タスクフォースの専門領域である医学教育学、教育心理学、教育哲学などのレンズを利用する。これらのレンズを利用し、参加者・企画者の教育哲学について振り返る。医学教育の文脈では、論理的な思考に重きを置かれている。ただ、論理的な思考側面だけでは、多様な教育哲学に迫ることが難しいため、直感的に表現できるように工夫する。実際のワークの内容は、①参加者の「好き」と「嫌い」を軸に教育を語る、②絵を使いながら学習者と教育者の関係性を表現する、③教育する上で「揺れ動き」の体験を語る、などを検討している。そのワークを通して、参加者の「右脳」と「左脳」を行き来しながら、思考の飛躍を生み出し、日常の教育実践が今よりも創造的なものにつながることを目指す。

対象：　教育を実施している・したことがある・しようとしている教育者（特に職種は問わない）　　定員：30名

WS-5　学んで楽しい！教えて楽しい！身体診察 －5つの教育実践例　TL

企画：　**朝比奈真由美**・伊藤彰一・鋪野紀好・神田真人・塚本知子・横尾英孝・笠井　大（千葉大学）

概要：身体診察は疾患の診断、日々の状態の評価などに有用ですが、十分なスキルを修得するのは困難であり、学習者に効果的に指導するための教育スキルが求められます。
今回のワークショップでは、身体診察スキルを集中的かつ体系的に研鑽するための教育モデルを習得することを目的とします。ベッドサイドティーチングでの多くの経験に基づいた教育手法のTipsに留まらず、反転授業、ピア・ティーチング、テクノロジーの活用など、アクティブ・ラーニングを実践するための取組を学びます。また、身体診察を通じた患者とのコミュニケーションスキルを高める方法についても学習します。
さらに、臨床実習後OSCEでも評価項目として掲げられている「診断仮説に基づく身体診察」の教育方法についても取り上げ、効果的な教育手法について検討します。どの診療科の臨床実習指導においても応用可能な、身体診察の教育法を皆で楽しく学びあいましょう。

対象：　卒前・卒後の身体診察の教育方法に関心のあるすべての関係者（医師、看護師、薬剤師など）、アクティブ・ラーニング を学びたい方
定員：40名

WS-6　英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！　A

企画：　**押味貴之**・Tamerlan Babayev・Cosmin Mihail Florescu・Raina Abad・Katrina Fanjul（国際医療福祉大学）

概要：国際化が進む中、OSCEを英語でも実施しようという大学が増えています。 海外臨床実習でも役に立つ技術を身につけようとするならば、日本語のOSCEをそのまま英語にしたものでは学修効果は高くありません。このワークショップでは日本の医学部で目指すべき「英語でのOSCE」のあり方を指導方法と評価方法の2つの視点から考えます。 最初に「海外臨床実習で求められる英語での臨床能力」を確認した後、英語模擬患者を使用した医学生の医療面接を実際に評価します。そこから「日本の医学部で達成可能な英語での臨床能力」を考えた後、「英語でのOSCEの指導方法」を「何を」「誰が」「どのように」行うかを Breakout Room にて議論します。最後にその議論を元に日本の医学部の実情に沿った現実的な「英語でのOSCEの評価方法」を全員で作り上げます。
医学部留学生も参加する楽しいワークショップですので、お気軽にご参加ください。

対象：　英語でのOSCEを予定している、もしくは関心のある教員・学生　　定員：30名

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2021年 1月 8日(金)

参加費： 2,000円 学部学生無料

(別途システム利用料として220円かかります)
参加費のお支払いについては、インターネットからお申し込み後、MEDC事務局からの自動返信メールにてご案内いたします。
参加費は、資料ならびにセミナーワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

開催方法： ZOOM（Web会議システム）

※定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受け付けません。
今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。
ご理解とご協力をお願いいたします。

今後の予定： 以下のスケジュールを予定しております。
今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。
ご了承下さい。

第79回 岐 阜 併催
第22回教務事務職員研修
2021/5/21-23

第80回 聖隷浜松
2021/11/13-14

第81回(Web) 岐 阜
2022/1/22-23